京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

平成28年11月11日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　辻　井　昭　雄　様

所属部局・研究科　医学研究科放射線医学講座

職 名・学 年　博士課程4年

氏　　名　山 下 力 也

助成の種類	**平成28年度　・　若手研究者在外研究支援　・　国際研究集会発表助成**	
研究集会名	アジア腹部放射線学会　教育講義コース2016ジャカルタ Asian Society of Abdominal Radiology Educational Lecture Course 2016 in Jakarta	
発表題目	①Congenital Diseases of the GU System ②Systemic Diseases of the Abdomen	
開催場所	インドネシア　ジャカルタ	
渡航期間	平成 28 年 10 月 7 日　～　平成 28 年 10 月 10 日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　■ 無　□ 有(　　)	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円
	使用した助成金額	200,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	航空券代の一部　114,334円
		宿泊費　15,682円
		発表資料作成(英文校正)費　69,984円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は貴重な機会を与えて頂き、心から御礼申し上げます。貴財団の助成を頂けたことで、金銭面での心配をすることなく、国際学会において招待講演を2行うことができ、また多くのアジアの著名な先生方との人脈を広げる素晴らしい経験をさせて頂くことができました。英文校正費にも充当させて頂くことで、計1時間と長い講演を行うに当たり、英語面での不安も格段に解消され、自信を持って講演に望むことができました。今後も貴財団の素晴らしい助成により、多くの若手研究者が国際学会で発表する機会が得られることを心から期待しております。この度は本当にありがとうございました。	

成果の概要／山下力也

【学会の概要】
学会名：第 1 回アジア腹部放射線学会・教育講演コース 2016（Asian Society of Abdominal Radiology, The 1st Educational Lecture Course 2016 in Jakarta）
開催地：インドネシア　ジャカルタ
開催期間：平成 28 年 10 月 8 日～平成 28 年 10 月 9 日

【学会内容】
本学会はアジア腹部放射線学会がアジアにおける放射線診断学のレベル向上を目的とし、アジア各国の一流の研究者および教育者がそれぞれの専門領域に関する教育講演を二日間に渡って行う教育講演コースを初めて開催したものである。参加者はアジア各国から約 350 名も集まり、会場全体が大変な活気に満ちていた。実際には 1000 人以上の参加希望者があったものの、会場規模の制限のため、参加者を制限せざるを得なかったとのことで、アジア全体における当学会への注目度の高さが伺われた。日本はもとより韓国、中国、台湾、シンガポールなどからアジア腹部放射線学領域のトップランナーの先生方ばかりが講演されるなか、自分のような若輩者に今回の招待講演の機会が与えられたことは、本当に幸運であったとしか言いようがない。今回の滞在中には、そのような将来の目標とすべき素晴らしい先生方と沢山の貴重なお話をさせて頂くことができ、貴重な人脈を得ることが出来たとともに、今後の自分の研究活動のさらなる躍進を誓う素晴らしい経験となった。さらに、当教室へ若手を留学させたいとの相談を受ける機会もあり、人事交流の側面のみならず、アジアの腹部放射線診断学領域の活性化という当学会の主旨を、私自信でも実感し、微力ながら貢献することが出来たことを大変嬉しく感じている。また、本学会では、インドネシア腹部放射線学会がアジア腹部放射線学会のメンバーに加わるための調印式が同時に執り行われ、記念すべき場に同席できたことを大変幸運に思う。

【発表内容】
私は、①Congenital Diseases of the GU System, ②Systemic Diseases of the Abdomen というタイトルで、二つの教育講演を担当した。前者は、泌尿生殖器系の先天性疾患について、後者は、全身疾患における腹部病変について、画像診断の果たすべき役割を中心に、遺伝子・分子生物学的な背景・病態に関する最新の知見・研究成果を交えながら、それぞれ 30 分ずつ、計 1 時間の講演を行った。貴財団の助成により、金銭面に不安を感じることなく発表原稿の英文校正を事前に十分に行うことができ、充実した発表練習を行えたことで、当日は自信を持って講演に望むことができた。幸

いにも、多数の質問を頂戴することとなり、大変に実りのある経験を得ることができた。

【謝辞】
　最後になりましたが、この度の国際学会での講演に対して貴重な助成をして頂いた貴財団には心からの感謝を申し上げますと共に、貴財団の今後益々のご発展をお祈り致しております。